

溝で囲まれた高台の集落

⑥羽黒前遺跡(仙台市宮城野区岩切、利府町神谷沢)



仙台市北東部と利府町南部の七北田川左岸にある丘陵の上に立地する、溝で区画された奈良時代から平安時代の集落跡です。

土地の区画整理に伴う発掘調査が、利府町教育委員会と仙台市教育委員会により令和3年度から実施されています。

令和4年度の仙台市教育委員会による調査の結果、奈良時代から平安時代の竪穴建物跡が多数みつかるとともに、外部からの侵入を防ぐためとみられる溝が北側の丘陵だけでなく南側の丘陵にもめぐっていたことがわかり、集落の性格を考えるうえで貴重な発見となりました。

丘陵の北側斜面を東西方向に延びる溝。令和3年度の利府町教育委員会の発掘調査で確認した長さを含めると、全長は100m近くになります。

協力：仙台市教育委員会

白線を引いた部分がカマドをもつ竪穴建物跡が残っていたところで、丘陵の南側斜面にたくさんの竪穴建物跡が見つかったことがわかります。

竪穴建物跡は一辺3m前後と小さく、大人2人が床に横になると、狭く感じる広さです。



国府を飾る蓮の花

⑦国指定史跡 大吉山瓦窯跡(大崎市古川小川)



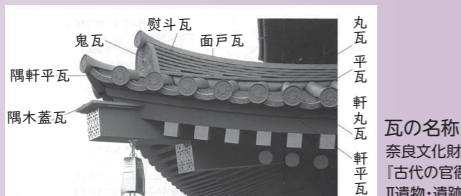
江合川左岸の丘陵上に位置する、陸奥国府多賀城や付属寺院の多賀城廃寺に瓦を供給した奈良時代前半の窯跡です。

多賀城跡調査研究所による調査が令和3年度から実施されています。

調査の結果、蓮の花の文様(蓮花文)が描かれた瓦を含む多数の瓦が出土しました。なかでも蓮のつぼみが連続して描かれた文様は、県内初の貴重な発見となりました。

南東向きの斜面に窯跡が7基みついています。掘り下げて調査した窯跡は、灰原から煙道までの長さ約8mありました。

蓮の花のつぼみを連続して表現した文様



瓦の名称
奈良文化財研究所2004「古代の宮街遺跡Ⅱ遺物・遺跡編」より

古代の寺院や役所跡では蓮花の瓦が多く使われるんだ。仏教に由来する文様と考えられているよ。

協力：多賀城跡調査研究所

窯に残された須恵器の使い道

⑧吹付C窯跡(大衡村駒場)



大衡村北部の丘陵上にある平安時代の窯跡です。国道4号の道路工事に伴う発掘調査を、宮城県教育委員会が実施しました。

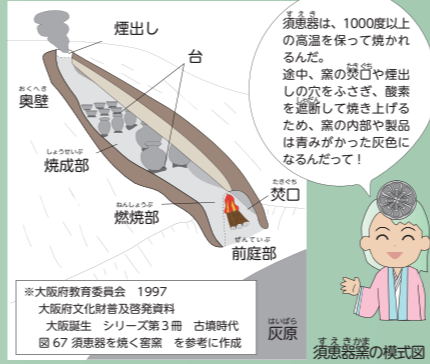
調査の結果、9世紀前半頃の窯跡2基が確認されました。そのうちの1基からは土器や瓦を掘えて焼くための大量の須恵器*がみつかり、製品を焼き上げる際の工夫を知る貴重な手がかりとなりました。



灰原からは、焼き損じたため出荷されなかった須恵器が数多くみつかりました。

1号窯の様子(東から)

焼成部からは、割れたり歪んだりしている失敗品の須恵器が多くは伏せられた状態でみつかりました。これらは、製品を上置いて焼くための台であったとみられます。製品を安定させて焼くための、失敗品を用いた工夫と考えられます。



仙台藩を支えた物流拠点

⑨蒲生御蔵跡(仙台市宮城野区蒲生)



仙台市北東部の七北田川左岸河口に位置する、真山堀*から高瀬堀*と七北田川を經由して仙台城へ米や塩などの物資を運び拠点となった、江戸時代の遺跡です。

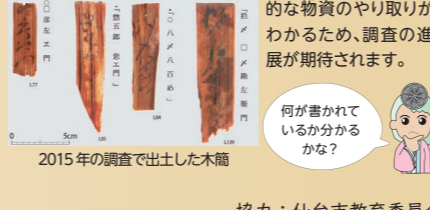
物流倉庫建設に伴う発掘調査が仙台市教育委員会によって実施されました。

調査の結果、江戸時代の堀跡や掘立柱建物跡などを確認したほか、短冊状の木の板に文字が書かれた木簡が多量に出土しました。掘立柱建物跡は蔵の可能性が高く、堀のそばに蔵が立ち並んでいた様子がわかってきました。

調査区全景(上が北)

堀跡2条、掘立柱建物跡7棟(SB4・8~13)、井戸跡1基などを確認しました。掘立柱建物跡は高瀬堀の近くに建てられ、規模はもっとも大きいSB12で南北約29mあります。これらは高瀬堀や真山堀を使って運ばれた物資を置いた蔵として利用された可能性があります。

今回出土した木簡は現在調査中ですが、2015年の調査で出土した木簡には、仙台藩に属する「遠由郎」[志由郎]の名前、「惣五郎」といった人名などが書かれていました。木簡からは具体的な物資のやり取りがわかるため、調査の進展が期待されます。



令和4年度 宮城の発掘調査 パネル展

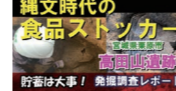
宮城県教育庁文化財課



今回のパネル案内人 **れんげもんちゃん**

宮城県生まれの、瓦の妖精。頭の軒丸瓦(蓮花文)がチャームポイント。

詳しい解説&これまでの発掘動画はYoutube「みやぎ文化財チャンネル」で公開中！



このパンフレットのPDFデータは、ホームページからダウンロードできます。(右のQRコードを読み込むか、「宮城県発掘調査パネル展」で検索)



宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約 6,200 箇所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことが私たちの責務と考えております。

県内ではここ数年、一年に約 300 件から 500 件の発掘調査が、県や各市町村の教育委員会、大学などの教育機関によっておこなわれています。今回は令和4年におこなわれた調査のなかで、特に注目すべき成果があがった9つの遺跡を取り上げてご紹介します。

県教育委員会では、遺跡の保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、この機会に遺跡に親しんでいただき、地域の遺跡や文化財保護へのご理解を深めていただくきっかけになれば幸いです。

今回の展示にあたって快く協力いただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



時代	年代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	約800~700万年前 約4万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万6000年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡（青森県）で集落が営まれる	①
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	
古墳	紀元後400年頃	豪族が盛んに古墳を造る	②
飛鳥	607年 645年	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす（遣隋使） 大化の改新	③
奈良	710年 724年 752年 780年	平城京（奈良市）に都を移す 多賀城が創建される 東大寺の大仏が完成する 蝦夷の反乱で多賀城が火災にあう	④ ⑤ ⑥ ⑦
平安	794年 869年 894年 1167年	平安京（京都市）に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる	⑧ ⑨ ⑩ ⑪
鎌倉	1192年 1274・1281年	源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役（元寇）が起こる	
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる	
安土桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城が始まる	
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	⑫
明治	1868年 1876年	明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。	

本文中の「※」がついている用語につきましては、用語解説をご参照下さい。

置き去りにされた？古墳時代の土器

②西岡遺跡（加美町上狼塚）

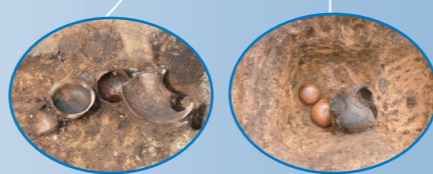
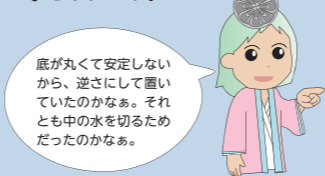


調査区南側（南から）

加美町東部の名蓋川左岸の河岸段丘上に立地する古墳時代と古代の集落跡です。

農道工事に伴う発掘調査が加美町教育委員会により実施されました。

調査の結果、古墳時代と奈良・平安時代の住居と考えられる竪穴建物跡* などがみつき、古墳時代の竪穴建物跡2棟からは、多数の土器が出土しました。引越しなどで使われなくなる直前まで使用されていた土器が、そのまま残されたものと考えられます。



貯蔵穴の底から出土した土器



逆さになっていた葉は完全な形で残っていました。

S1100 竪穴建物跡（南西から）

協力：加美町教育委員会

駅家の中枢施設を発見か？

④原遺跡（岩沼市長谷）



遺跡遠景（北西から）

岩沼市南部の阿武隈川左岸の自然堤防上に立地する、奈良・平安時代の玉前駅家*または関*と推定されている遺跡です。

岩沼市教育委員会による発掘調査が 2016 年から継続して実施されています。

調査の結果、奈良時代の真北に延びる大溝の延長とそれに囲まれた複数の掘立柱建物跡がみつき、この区画された内側の空間とそれに伴う建物は、駅家または関の中枢施設の可能性がありますと考えられます。

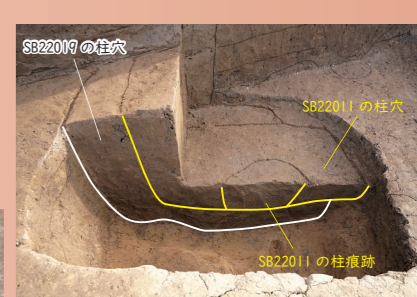


SB22011・22019 掘立柱建物跡は同じ場所に同じ規模で建てられており、計画的に建て替えられたと考えられます。



調査区全景（南から）

大溝は、真北から東へ直角に曲がるコーナー一部分から南へ45m以上、東へ16m以上延びることがわかりました。また大溝で囲まれた内側では、大溝と同じ真北を向いた3棟の掘立柱建物跡が計画的に配置されていました。



SB22011・22019の柱穴の断面。それぞれ柱穴は一辺約70~90cm、柱の痕跡は直径20~28cmあります。

協力：岩沼市教育委員会

丘の上の食料倉庫

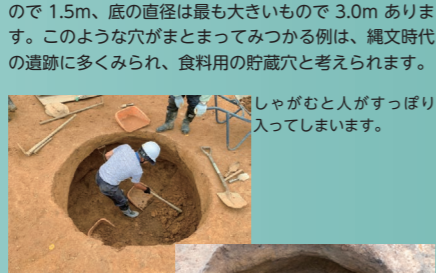
①高田山遺跡（栗原市築館高田）



遺跡遠景（南から）



丸い形の穴が 19 基みつきました。深さは最も深いもので 1.5m、底の直径は最も大きいもので 3.0m あります。このような穴がまとまってみつかるとは、縄文時代の遺跡に多くみられ、食料用の貯蔵穴と考えられます。



貯蔵穴として使われなくなったあと、穴の底に捨てられたとみられる縄文土器もみつかっています。



黒い土の部分が穴の断面です。上が狭くて下が広い袋状の形が特徴です。

協力：栗原市教育委員会

東西に並んだ2棟の長大な建物

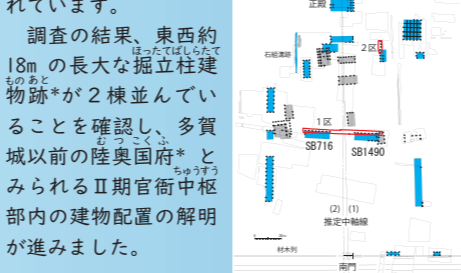
③国指定史跡 仙台南山官衙遺跡群【郡山官衙遺跡・郡山廃寺跡】（仙台市太白区郡山）



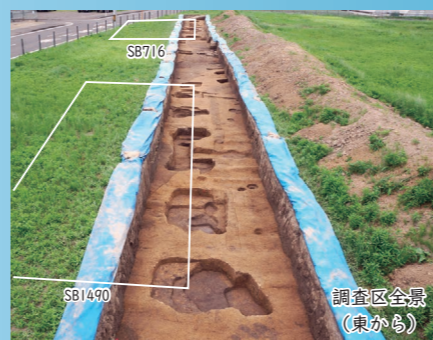
仙台市南部の名取川と広瀬川にはさまれた自然堤防上に立地する、飛鳥時代から奈良時代の官衙（役所）・寺院跡です。

仙台市教育委員会による発掘調査が 1979 年から継続して実施されています。

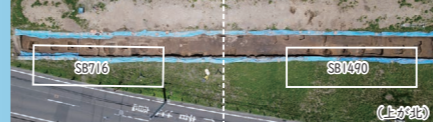
調査の結果、東西約 18m の長大な掘立柱建物跡* が 2 棟並んでいることを確認し、多賀城以前の陸奥国府* とみられる II 期官衙* 中核部内の建物配置の解明が進みました。



II 期官衙中核部全体図



調査区全景（東から）



推定中軸線

SB716・1490 掘立柱建物跡はそれぞれ東西約 18m で、南北は 1985・1994 年の調査によって約 5.4m と分かっています。中核部の中軸線をはさんで左右対称の位置に並んで建てられています。



掘立柱建物跡の柱穴は、いずれも一辺 70 ~ 110cm あります。

協力：仙台市教育委員会

国府を支える政庁裏のモノづくり

⑤国指定特別史跡 多賀城跡附寺跡（多賀城市市川）



調査区遠景（北から）

多賀城市北部の丘陵上に立地する、奈良・平安時代の東北地方の行政と軍事を担う陸奥国府が置かれた役所跡です。

多賀城跡調査研究所による調査が 1969 年より継続して実施されています。

調査の結果、鍛冶工房で使われた遺物がみつき、国府内で最も重要な政務や儀式をおこなう政庁のすぐ北側が、8 世紀後半から 9 世紀中ごろのある時期に、鉄製品づくりの場として利用されていたことがわかりました。



さびの下には何が隠れているんだろう。分析の結果が楽しみです。

さびで覆われた鉄製品



調査区北側（南東から）

鉄滓などの遺物に関する遺物が多数の炭ととも出土しました。



鍛冶作業イメージ図 潮見浩1988 『技術の考古学』に一部加筆

- 土製の焼き物で、もとは円筒状の形をしています。
- 鉄製品やその素材を高温で溶かした際、炉の底に溜まる不純物の塊です。
- 調査後の分析で製品の種類や形などが分かる可能性があります。

協力：多賀城跡調査研究所

用語解説

掘立柱建物：礎石などを用いず、地面に掘った穴に直接柱を立てて上屋を支えた平地式の建物です。

竪穴建物：地面を方形や円形に掘りくぼめ、建物の床面と壁をつくり、柱を立て屋根をかけた半地下式の建物です。

土師器・須恵器：土師器は浅く掘りくぼめた穴の中で比較的低温（700～800度）で焼かれた素焼きの土器で、赤褐色をしており、東北地方では内面を黒色処理されるのが特徴です。須恵器も素焼きの土器ですが、密閉度の高い窯により高温（1000度以上）で焼かれ、器面は硬く青灰色をしています。

国府：飛鳥～平安時代、中央政府が全国に設置した国の役所です。政府の任命した役人（国司）が派遣されて政治を行いました。

駅家・関：駅家は地方と中央との連絡にあたる使者に食料を供給した施設、関は国境や要所で人や物資の往来を取り締まった役所です。貞山城・高瀬堀：貞山城は江戸時代に阿武隈川河口から塩釜湾を結んだ運河、高瀬堀は貞山城と七北田川をつないだ運河です。